

# 日本鐵鋼協會記事

**第9回理事會** 昭和7年12月7日(水)午後5時開會。  
**出席者** 河村 驍君、俵 國一君、水谷叔彦君、香村小録君、服部漸君、**協議事項** 1) 工學會より照會の次記に関する件、「工率及壓力の單位に關し商工省より諮問の件」本會に於て次の如く意見回答に決定す。

**回答意見**

- (1) 工率なる名稱は已に久しく慣習的に使用せらるゝを以て此際強いて之を變更する必要を認めざる可し、最も工率なる名稱は音「効率」と相通し彼是混亂の恐れあるを以て 効率を能率に改むるを便利とす可し。
- (2) 工學上の諸計算に於ては 世界各主要國の慣習の變更せられざる限り馬力單位を存置するを便利とする場合あるも必要に際しキロワットより馬力若くは馬力よりキロワットに換算すること容易なるを以て法令上別に馬力を存置する必要なかるべし。
- 2) 帝國海事協會 本會推薦技術委員會委員は 任期満了に付き更に推薦依頼ありたるに關する件、以上委員服部漸君、水谷叔彦君、渡邊三郎君の三氏推薦決定せり。
- 3) 來る昭和8年4月開催の本會第十八回通常總會、第十回講演大會、第八回研究部會に關する件。
- 4) 入退會者及會員異動に關する件、(自11月2日至12月7日)
- イ、入會申込者承認 正會員 3名 准會員 3名

## 新入會者氏名

| 居所又は宛名先                                      | 職業及勤務先            | 會員別 | 入會者氏名                               | 紹介者                                      |
|--|-------------------|-----|-------------------------------------|--|
| 大阪府豊能郡箕面村大字半町三一七ノ一<br>麴町區丸ノ内二ノ二〇ノ一(電丸ノ内二五一一) | 高松機械金物商店主         | 正員  | 高松宗直君                               | 本村 橋 彌 八<br>三村 松 橋 太<br>村 島 德 七<br>" 橋 太 |
| 岡山市内山下町七(岡山六四三)                              | 九州耐火煉瓦會社<br>専務取締役 | "   | 河合幸三君                               |  |
| 神戸市灘區原田二                                     | 神戸製鋼所             | 准會員 | 三浦義之助君                              | 村松橋太郎<br>平川良彦<br>吉川平喜                    |
| 八幡市製鐵所銑鐵部第一製銑課                               |                   | "   | 藤田 <sup>カズ</sup> 一 <sup>アキ</sup> 郎君 |  |
| 八幡市製鐵所製鋼部第一製鋼課                               |                   | "   | 高橋齋君                                |  |

ロ、退會申出者承認 正會員 荒木彬、福井國太郎、中村卯一郎、池上重徳 准會員 川島浪夫、野中義詔  
 ハ、死亡者2名(別項)  
 5) 其他會務に關する諸件。

**報告事項** 1、10月分收支決算、第九回講演大會收支決算、2、其他會務に關する件、等にして午後8時閉會す。

**第九回編輯委員會** 昭和7年11月29日(火)午後5時開會、**出席者**河村會長、委員池田正二君、石原善雄君、田中清治君、山田良之助君、三島徳七君、鹽澤正一君、廣瀬政次君

**協議事項** 1、鐵と鋼 第19年第1號より會誌寸法擴大に關する件、2、鐵と鋼 第19年第1號上掲原稿選定の件。

### 選定論文

- 鹽基性平爐改造の經過と其成績に就て 西山彌太郎
- 高滿庵大洲田鋼の加熱變化に及ぼす炭素の影響 村上武次郎、矢島忠和
- 金屬並に合金折れ口の4型式 飯高 一郎
- 鑄鐵の熱傳導率に就て 菊田多利男
- 3、第二回銑鐵部會の議事録整理し第18年12號へ掲載の件、4、第九回講演大會狀況報告整理し第18年12號へ掲載の件、5、第二回製鋼部會及第三回製鋼部會議事整理、6、來る昭和8年4月開催の第10回講演大會に關する件、等にして午後8時30分散會す。

## 死亡者

本會准會員河添義雄君の逝去されたるは洵に哀惜の至りなり茲に謹んで弔意を表す

## 日本鐵鋼協會第九回講演大會狀況報告

昭和3年第4回講演大會を大阪に開催してより茲に4年、再び第9回講演大會を大阪の地に開くこととなり、京都帝國大學教授、齋藤博士を委員長に推し、本年6月より其の計畫を進め、昭和7年10月16日より20日に亘る5日間に香村賞牌贈呈式、講演會、工場見學、研究部會より成れる大會を舉行するに至れり。

參會者300餘名、講演者40名、實に未曾有の盛會にして、これ如何に鐵鋼に関する學術的乃至實際的研究の盛大になりしかを物語るものなり。大會は豫定プログラムの如く極めて順調に進行し、多大の効果を收めたるものと確信す。

本大會が全く豫想以上の盛況裡に終始し得たることは是偏に大阪工業大學並に見學其の他につき絶大の援助を興へられたる諸官籍、諸會社及び會員の熱誠とに依るものにして、本會の感謝措く能はざるところなり。

## 第9回講演大會委員氏名

| 擔任   | 氏名           |
|------|--------------|
| 委員長  | 齋藤大吉君        |
| 副委員長 | 加藤榮君         |
| 總務係  | 加藤榮君         |
| 交渉係  | 齋藤大吉君 加藤榮君   |
| 接待係  | 荒木宏君 出羽政助君   |
|      | 金丸喜一君 木下亮吉君  |
| 講演係  | 淺田長平君 藤井寛君   |
|      | 山口珪次君        |
| 外    | 清水要藏君 多賀谷正義君 |
|      | 松川達夫君 岡田實君   |
| 見學係  | 大森治一郎君 高梨憲治君 |
|      | 百々初男君 西山彌太郎君 |
| 記録係  | 田村宣武君 布目齊司郎君 |
| 會計係  | 藤堂宗君         |

## 講演會之部

講演會場として大阪工業大學内の二講堂を當て、事務室、控室、休憩所、食堂 其他諸般の準備整へられたり。

## 第一日 10月16日(日)

此の日天候定まらず時々驟雨を見たれども、參會者實に250名餘、此に廣き第一會場も溢るゝばかりの盛況なりき。

午前9時10分開會、委員長齋藤博士の開會の辭に次

いで、俵博士司會の許にプログラムに従ひ講演に移れり。(註、齋藤博士の開會の辭は別項)

午前10時12分、一先づ講演を打ち切り休憩に入る午前10時30分、一同再び會場に參集、委員長齋藤博士司會の辭に香村賞牌贈呈の式を擧げらる。式は先づ會長河村博士の式辭(註、別項)に始まり、香村賞牌の由來、香村博士の略歴、功績並に本日の光榮ある受賞者、久保田權四郎氏の略歴、功勞を述べ、次いで榮譽ある香村賞牌を會長より久保權四郎氏に贈呈せらるれば拍手滿場にどよめき此の光榮を讃へ慶賀せざるものなし

續いて大阪市長(代理)大阪商工會議所會頭、大阪鐵工業同業組合長の祝辭、久保權四郎氏の謝辭ありて、午前11時芽出度此の式を終れり。(祝辭並に謝辭は別項)午前11時5分今泉博士司會の下に再び午前のプログラムに従ひ豫定の如く講演を續行し、午前11時5分終了晝食、休憩に入る。此の間會員は三々五々相集りて或は陳列品の參觀に或は歡談に時をうつせり。

午後1時講演開始。講演第一部は第一會場に、第二部は第二會場に於て同時に開始せらる。會員は各希望せる講演に臨み熱心に傾聽す。講演は豫定プログラムの如く順調に進行し、午後5時過兩會場とも其の日程を終る。

## 第二日 10月17日(月、神嘗祭)

第二日に於ける講演は第一日午後と同様二部に分れ午前9時より開始せらる。此の日天氣晴朗、出場者は前日に劣らざる盛況を呈す。講演は豫定の如く運び正午夫々日程を終り晝食、休憩に移る。

午後の講演は第一會場に於て開會。午後1時野田博士司會の下に菊田多利男君の講演を以て開始され、以下プログラムに従ひ順次講演に移れば質問また續出、極めて盛況裡に今回の講演大會の全講演(全數40)を終り、續いて會長河村博士の開會の辭ありて2日に亘る大講演會は滞りなく了りたり、時に午後5時なりき。

前日来各講演者何れも學術上並實際上有益なる研究結果を發表し、斯界に貢獻せらるる處尠からざりしのみならず聽衆亦終始熱心に傾聽し、眞に鐵鋼協會講演大會の名に背かざるの盛況を呈したるは詢に慶賀の至りなり。

## 開會の辭

日本鐵鋼協會第九回講演大會委員長

工學博士 齋藤大吉

此度日本鐵鋼協會が第9回講演大會を當地に開かるゝに當りまして私が其準備委員長を囑託されました關係上委員一同を代表して一言御挨拶を申し上げたいと思ひます。

顧みますれば去る昭和3年11月當地に第4回講演大會を催しましてから丁度滿4年になります、其間本邦の製鐵業乃至加工業は幾多苦しき試練を受けたのであります、此等の事業に従事せらるゝ技術家諸君の努力は鐵鋼に關する學術的研究と相待つて克く此試練に耐へ優良品の製造、製産費の遞下等に成功されて居りますことは私共の敬服措く能はざるところであります、今之爲替相場の低落時局の關係等も手傳いまして此等の事業も一般に復活の曙光を認むるに至りましたことは直接間接事業に關係を有する御互の非常なる悦とするところであり、願くは此大會を劃期として此等の事業が愈々復活の地歩を固め將來一層の隆盛に赴くことを祈つて止まないものであります。

次に今日は學徳並び高き斯界の長老香村博士の資金寄附に依て今春本協會に制定されました香村賞牌を株式會社久保田鐵工所社長久保田權四郎氏に贈呈する第一回贈呈式を後刻此會場に於て舉行されることは阪神地方に居住する私共の非常なる光榮として喜ぶところであります諸君も何卒此式に御參列下さいまして斯界に功勞多き久保田氏の榮譽を稱へられんことを切望致して置きます。

又私共は此度此大會を準備するに當りまして時節柄聊か其成功を危んだのでありましたが計らずも講演者40名、參會者300餘名と云ふ未曾有の盛會を得ましたことは實に望外の幸福でありまして如何に鐵鋼に關する學術的乃至實際的研究の盛大になつたかを物語るものであります、此點に付ては遠來の皆様は厚く御禮を申し上げます、去り乍ら會場の設備及見學の御案内等に關して定めし不行届の點が多からうと存じますから夫等の點は惡しからず御諒恕を御願します。

終りに私は此大會を開くに當り此講演會場を貸與されました大阪工業大學並に見學其他に付き多大の援助を與へられました大阪工廠、造幣局、大阪市港灣部及住友製鋼所を始め阪神地方の有力なる各會社に對し深厚なる謝意を表したいと思ひます。

### 香村賞牌贈呈式式辭

日本鐵鋼協會々長

工學博士 河 村 曉

滿場の諸君今回當大阪市に於きまして日本鐵鋼協會第

9回講演大會の開催を機とし株式會社久保田鐵工所取締役社長久保田權四郎氏の鑄鐵管自動製型機並に製芯機に關する發明の功績に對し香村賞牌の贈呈式を舉行するに至りました事は本會の最も欣幸とする處であります。又この時機に際し隅々本會々長の席を汚して居ります干係上式辭を申述ぶる機を得ました事は私の尤も光榮とする處であります。香村賞牌の贈呈は今回がその第一回でありますので先づ香村賞牌の由來に就て略述致しますならば之の賞牌の寄贈者香村博士は明治25年東京帝國大學卒業後40年の久しきに亘り終始一貫釜石製鐵所の事業經營の樞機に贊與せられ其の間製鐵事業に關する調査會其他公私の會合に於て常に重きをなして居る方で本邦製鐵事業の發展に對しては多大の貢獻をなされました。又吾が鐵鋼協會に對しても理事たる事10年其間會の基礎を確立する爲めには最も大切なる時期である處の第三代目の會長として本會の基礎を築き尙ほ今日も前會長として果亦名譽會員として本會の爲めに直接間接に盡力されて居ります、實に本邦製鐵事業に取りましては元勳元老の第一人者と稱す可き方でありますのみならず近代稀に見る處の人格者として吾人の常に推服致す處であります。本年4月同氏は本會に對し多額の資金を寄贈され其一部は永久的に保存し其保存金より生ずる利子を以て鐵鋼の理論又は作業に關する有益なる發見、發明又は新案を得たるものに對し之を表彰する事其殘餘の資金は本會の目的達成上有効適切なる事柄に向つて支出する事を條件とせられたのであります。之の條件に基きまして同月香村博士寄贈資金取扱規則を制定し今日之の規則に依りまして第一回の香村賞牌贈呈式を行ふ次第であります。次に本日の受領者たる久保田權四郎氏の經歷に就て一言申述べたいと思ひます。久保田氏の鑄造事業に着手せられたのは今を去る40有3年前の明治22年でありますが明治26年以後特に鑄鐵管製造の事業に對して刻苦勵精奮闘努力せられ其間幾多の發明新案を得て事業の改善を施し大に輸入防退に勤めて其功を奏し殊に大正12年、13年の交鑄鐵管自動製型機並に製芯機を發明せられて以來工場に於ての能率は頗る増進し生産費は大に低減し南洋方面其他海外に於て外國品と競走して斷然勝利を占め國益を増進するに至つたのであります。今日尼ヶ崎、恩加島町、市岡及隅田川等の各所工場に於て直管、異型管大小各種の鑄鐵管を製造し又大阪市に於ける同所機械工場に於ては、工作機、各種衡器、製鐵機械、船舶用主機、補助機、小型船用發動機並にディーゼル機關、農工用石油發動機等を製作し各方面の需要を充たし何れも内外に名聲を博せられて居るのであります。又餘力を以て各種公益團體

の名譽職として活動せられ且つ學校道路の開設等の社會奉仕にも力を盡されて居らるゝのでありますが之等の偉大なる功勞に對する表彰は鐵鋼専門の協會たる吾日本鐵鋼協會の獨り私す可きものではありません。之は大阪市、大阪府若くは國家より夫々の機會に於て當然表彰する可きものと信ずるのでありまして我日本鐵鋼協會に於ては鐵鋼に關する事項のみに就て表彰する事が其分に應じたる處置と考へるのみならず香村賞牌贈呈規則の主旨も亦鐵鋼の理論又は作業に關する有益なる發明、發見、新案に對して授與せらるゝ事に規定されて居るのでありますから本協會は其分に應じ且香村資金取扱規則に照し久保田氏の各種の功績中特に自動製型機並に製芯機の尤も顯著なる發明のみに對して表彰致す次第であります。勿論之の賞牌は必ずしも其價格の高價なる事を以て貴重なるものでありません。

本邦鐵鋼界の元勳にして且人格者たる香村博士の特志なる寄贈と奮闘努力洵に立志傳中の人たる久保田氏の比ひ稀なる優秀なる發明と相並んで其光輝を發揮する次第でありまして之の寄贈者並に第一回の受領者共に其人を得ました事は本邦鐵鋼界の爲め誠に慶賀に堪えざる次第であります。希くは今回の贈呈式の企により將來鐵鋼界に従事する方々就中青年技術者の奮起を促し今後年々歳々受賞候補者の續出するに至らん事は私の切望して止まざる處であります。

以上を以まして式辭に代へ之より直に贈呈に移りたいと思ひます。

## 祝 辭

日本鐵鋼協會講演大會開催に方り斯道功績者を選奨する香村賞牌贈呈式を舉行し本市久保田權四郎氏の鐵管鑄造用製型機並に製芯機發明に關する功を表彰せらる洵に慶賀に堪へざる所なり。

顧ふに氏は身を挺して鐵工の業に従はれてより實に40有餘年の久しきに亙り其の間刻苦精勵一意專心斯業の發展向上に貢獻せられたるの功績實に顯著なるものあり特に今回の表彰を見たる兩機の發明は鑄鐵管鑄造上の能率増進に一新時期を畫したるものと云ふべく今日の榮譽を荷はるゝは蓋し所以なきにあらず是れ獨り氏の光榮たるに止まらず又實に本市産業の幸慶たり真に欣喜に堪へざるなり。

冀くは自重加餐愈々邦家に貢獻せられむことを一言を敍して祝辭となす。

昭和七年十月十六日

大阪市長 關

一

## 祝 辭

日本鐵鋼協會は本日をして茲に久保田權四郎君の有益なる發明功績に對する香村賞牌贈呈の式典を舉行せらる洵に我國産業界の爲め慶賀に堪へざるなり。

抑々優良品の生産、發明考案の振不振は一國産業の隆替に至大の關係を有す、久保田君は其の經營せらるゝ株式會社久保田鐵工所の前身たる鐵工所の創始せられしは明治22年にして當時我國の斯業は未だ搖籃時代に在りしと雖も君克く銳意研究に努むると共に専ら優良品の生産と各種の發明考案に力を致されたり爾來40有餘年春風其の枝幹を育み秋雨其の根柢を培ひ今や工場敷地は實に四萬五千坪従業員1,600人を算し生産年額正に1,000萬圓に達せんとす、而して其の販路は皆に國內の需要を充足するのみならず餘勢溢れて遠く支那南洋に擴張し殊に最近和蘭本國に進出せりと聞く盛なりと謂ふべし加之君が鐵管製造に係る考案に依り特許を得たるもの33種諸機械の特許權を有するもの亦13種に及べり何んぞ吾人の嘆賞措く能はざるべけんや。

惟ふに君は我國鐵工界の覇者にして其の今日の隆昌を來せるは素より臥薪嘗膽一意勵精せられたる結果なりと雖も抑々亦40有餘年以前に在りて早く時勢の趨向を洞察せられ炯眼の然らしむる所たらずんばあらず漸年君が業務の發展に伴ひ優良品の生産に努め輸入を防遏して國富の充實に貢獻し或は前人未到の發明考案を試み斯界を裨益せられしは世人の周知する所なり宜へなる哉。

聖鑒昭々昭和3年綠綬褒章を賜ひ其の功勞を嘉賞せられ超へて翌4年聖上陛下大阪行幸の際特に君が工場に侍從御差遣の光榮に浴したる外諸種の公共團體其他各方面より表彰を受けられたること枚擧に遑あらず更に今亦我國斯界の權威ある日本鐵鋼協會より名譽ある賞牌の贈呈を受け君の榮譽實に甚大なりと謂ふべし。

今や我國産業界は萎靡不振に陥り其の革新を促すこと頗る急なるものあり冀くは君攝養加餐益々斯業に盡瘁し今後一層國運の興隆に寄與せられむことを聊か燕辭を陳へて祝辭とす。

昭和七年十月十六日

大阪商工會議所 會頭 稻畑勝太郎

## 祝 辭

今回日本鐵鋼協會第9回講演大會が我大阪市に開催せらるゝに當り曩に同協會が其の取扱を一任せられたる香村博士寄贈資金に依る香村賞牌の第一回授賞者として久保田式鑄鐵管自動製型機及製芯機の發明者たる大阪鐵工

業同業組合相談役株式會社久保田鐵工所並に 株式會社久保田鐵工所機械部社長 久保田權四郎氏を表彰せられたることは寔に機宜に適したる美舉にして獨り被表彰者の名譽を顯彰するに止まらず之に依つて斯界を刺戟し後進を鞭撻して業界の發達向上に資する所蓋し 尠少なからざるべきは信じて疑はざる所なり。

抑も我國に於ける鑄鐵管製造業者は 水道衛生施設並に瓦斯供給事業の發展に伴つて長足の進歩を遂げたりとは謂へ其の當初は他の事業に於ても見らるゝ如く 鑄鐵管需要の全部は歐米よりの輸入に俟ちたるものにして 事業經營の上に幾多の困難を伴ひたりしが 其間にありて久保田氏は毅然として信ずる所あり 拮据精勵専心斯業の發達に努力して 漸次輸入品を驅逐し完全に國産品獨占の境地を開拓したるのみならず 技術研鑽の上に於ても独自の穿鑿に苦辛邁進して 遂に久保田式自動製型機並に製芯機の世界的大發明を完成し従前の作業に比し約四倍の能率増進を來さしめたと共に製品の品質に於ても 世界無比の優秀品を製出し得る事を得て斯業に 一新機軸を出し之が眞價は遂に 歐米先進の同業を凌駕して近年東南洋の市場に覇を唱するに至りたるのみならず遠く歐洲の中心にまで進出して本邦工業界の爲め萬丈の氣を吐き 尙ほ矍鑠として身心共に壯者を凌ぐものあるは蓋し 鐵工業界に於ける快男子と稱すべく 其の國家産業上に貢献したる功績寔に顯著なりと謂ふべし 而も未だ其功に甘んぜず一意業務に精勵して捲む所を知らざるの風あるは實に我等同業に携はる者の好模範にして今回名譽ある香村賞牌 第一回受賞者たるの光榮を有せらるゝ又故なしとせず。

希くば斯業並に邦家の爲め益々 自重加餐せられんことを一言以て祝辭とす。

昭和七年十月十六日

大阪鐵工業同業組合 組長 江村 義三郎

### 久保田權四郎氏の謝辭

今回日本鐵鋼協會第 9 回講演大會御開催に當りまして 微力なる私に對し圖らずも 御協會より名譽ある香村賞牌を拜受致しますことは誠に身に餘る光榮と存じ衷心感激に堪へない次第でありまして厚く御禮申上ます。

尙ほ此の榮譽は永く記憶に止めまして 家寶として子孫に相傳へ度いと存じます。

實は私に此の名譽ある賞牌を下さると云ふことを 仄かに洩れ聞きましたので無論私は夫れを戴く資格は御座いませんので再度御辭退申上た様な次第でありましたが是非と云ふことで有りましたので厚が間敷も 御受けした様な次第であります。之に付きまして 會長始め幹部の皆

様並に會員各位の御厚意に對して厚く御禮申上ます。

顧みますれば私が鐵工業を始めましてから 今日迄足掛 43 年になります、其間の事柄に付きましては只今會長並に市長、商工會議所會頭、鐵工業組合長各位より過分の讃辭を頂きましたが固より之は當らないので御座いますが一言申述べたきは、如何せん其當時の我國の鐵工業界は誠に幼稚なものでありまして今日と比較致しますと恐らく百分の一にも當らぬ位の貧弱さでありました殊に鑄鐵管製造に至りましては全く據り處が無かつたのであります、と申すのは當時我國では學者、實際家、其他文献等により知識を得る機會はありませぬ云はゞ獨創的ならざるを得なかつたのであります 而し之は私ばかりでなく其の頃大會社として斯業に着手された處も十指を屈する程でありましたが其の殆んどは或は廢業し 又は他に轉業をなすと云ふ状態でありました、而し自分は 止むにやまれぬ様な難關に立ち至りまして全く 鐵管と心中するとも止めることは出來なかつたのであります、従つて其間製造法に付て色々な發明なり考案を致しまして 漸く今日に至つたのであります。

一面需要先は内地は無論でありまして既に 25、6 年前完全に輸入防遏を致して居りますし又兩 3 年以前より南洋及歐米方面に相當纏まつた輸出をする 様になりましたことは心竊かに喜んで居る様な次第で御座います。

而し之と申すも畢竟するに永年皆様の 御指導と御援助によるものでありまして此の儀重ねて深く 感謝致します

而しながら申す迄もなく日進月歩の世の中でありまして 今後共老骨に鞭打ちまして斯業に微力を盡し度いと 存じますので 何卒此上共御後援の程を只管御願ひ申上ます。

誠に簡単でありますが一語を以て今日の 御挨拶にかへ度いと存じます。

### 講演會閉會の辭

日本鐵鋼協會々長

工學博士 河 村 驍

本會第 9 回講演大會のプログラム中最も重要なる講演會は之で終了致しました昨日より 今日に互り多數の講演者諸君に於ては平素心血を注いで研究せられたる 有益なる論文を發表せられその 多大なる御盡力と御苦勞に對し深く感謝致します 又司會者諸君の御盡力に對しても厚く御禮を申述べます又各方面より御參集の 會員諸君の熱心なる聽講に依り何れ盛大なる會合に 終始致しました事に就ても感謝の意を表するものであります 本會の講演大會

も回を重ねる事9回、同一回と隆盛に趣き毎回講演者の申込が40若くはそれ以上の多数に上る事は鐵鋼並に之と干連して金屬の研究が増々旺盛となりつゝある事を證據立てるものでありまして之は軀て之の研究の基礎の上に鐵鋼業並に金屬工業の繁榮を招來するものとして慶賀に堪えざる次第であります殊に近來研究者は獨り學界並に直接製造作業に従事する技術者のみならず鐵鋼の加工並に使用者側の研究の漸次旺盛に向ひつゝある事は喜ぶ可き現象であつて學者側、製造者側並に加工消費者側の三方面よりの研究は互に相待つて渾然融和し鐵鋼の學術技術の發達上貢獻する處至大なるを信ずるものでありましてこの三者相互間の智識交換の仲介をなす處の鐵鋼協會の存立をして意義あらしむるものと考へます。尙ほ今夕は晚餐會もあり又明日より工場見學等もありますが一同打揃つて會合する事も或は不可能かと存じますので此機會に於て今回の講演大會委員長齋藤博士、副委員長加藤榮氏其他委員各位の講演會、工場見學其他の諸會合に對する準備萬端一切の件に關し本春當大阪市に於て大會開催に決定致しました以來數ヶ月に互り不絶一方御盡力を賜はりたる事に對し會員一同を代表し茲に滿腔の謝意を表し尙ほこの會場を貸與されました大阪工業大學並に講演會に關する萬般の事務に對し熱誠御盡力を賜はりたる冶金科の諸教授職員並に學生諸君に厚く御禮を申述べ此の講演會を終はる事と致します。

### 日本鐵鋼協會第九回大會通俗講演會狀況

10月16日(日曜日)午後6時朝日會館に於て開催當日は當大阪地方に於ける秋季行樂最適の季節に該當せる爲聽講者の參集意外に少なく講演者に對し氣の毒の感ありしは關係委員の特に遺憾とする所にして從て開講稍遅れ午後6時30分開會す聽衆約70名、

齋藤委員長開會の辭を述べ(別項の通り)6時35分石川博士登壇。

「工業用金屬材料に對する概念に就て」講演開始 先づ鐵及鋼の化學的性質よりして其分類及用途に就き詳述し次に鐵合金銅合金アルミニウム合金等の性質及用途等に就き興味多き講演をなし。

午後7時55分石川博士の講演を了り直ちに河村會長は製鐵所技監野田鶴雄氏を紹介し野田技監登壇「本邦製鐵鋼業の一般に就て」講演開始時に午後8時。

世界一般に使用せらるる金屬の年需用量8,000,000噸に對し鐵及鋼の需用は其の93%を占むる狀勢にある事により鐵及鋼の重要性を認識せしめ。本邦製鐵鋼事業の發達及其將來に關し諸種の統計を擧げて之を説述し誠に今後

15年後に於ける本邦の鐵鋼需用量を從來の實蹟を基としたる公式により之を想定し其額5,500,000噸を自給自足するに當り鑛石及石炭の獲得に於て何等不安なきを強調し而も鐵鋼生産に關し將來我國に於て最も考慮を要するものは屑鐵の問題にあることを説破し識者の注意を促し尙之が對策につき所謂鑛石製鋼法の必要なる所以に論及しひいては鐵鋼一貫作業の重要性を述べ午後9時5分講演を終了次に河村會長閉會の辭を述べ9時10分散會。

### 晚餐會狀況

10月17日中央電氣俱樂部に於て開催。當日工業大學に於ける第2日目の講演會終了後時餘にして本會場集るもの來賓及各會員128名暫く談話室に於て歡談午後6時50分食堂に誘導須臾にして開宴。デザートコースに入るや(時に午後7時40分)河村會長起ちて別記の挨拶をなし引續き恒例により5分間演説を催したき旨を宣し來賓久保田權四郎氏を指名久保田氏より別記の演説あり次に香村博士起つて大略次の如き演説をなす。

此度本會講演大會に臨み諸氏の研究心盛なることを見聞し之が商賣上の不景氣を克服して工業の發展を成さしめ得んことを切望して止まず。又今回久保田氏の事業に關し承知したる處によれば其經營の宜しきを得たるは勿論熱心なる研究と奮闘努力の結果鑄鐵管工業に於て夙に自給自足の域に達したるのみならず今や本場たる歐洲迄も其販路を延ばすに到ると云ふが如き効果を擧げられたる實に氏の研究努力の賜ものたるに外ならずと信ずるものである。昨日授牌式場に於て、關市長商工會議所會頭及鐵工業同業組合長等の諸氏は此度の受牌は久保田氏の名譽なりと述べられたのであるが之は同氏の名譽と言はんよりは寧ろ後輩にとり如斯放蹟ただならざる久保田氏が受けられたる賞牌と同等のものを受け得ると云ふことが將來の受賞に於て非常に偉大なる名譽を感せしむることになるのであつて此點は取りもなほさず香村自身にとつて身に餘る光榮であると考へるのである。尙賞牌贈呈に關しては河村會長齋藤委員長初め他の委員諸氏の盡力によつて昨日の式を芽出度執行せられ私に満足と興へさして頂いたことに就て茲に諸氏に對し深く感謝の意を表するのである。

次に鐵工業同業組合長江村義三郎氏起つて次の如き演説をなせり。

鐵工業に従事して居る我々は常に鉄及鋼を使用して仕事をして居るので謂はば鐵と鋼は吾人の生命の親として尊重すべきものであり如斯關係にある我々が本市に開催されたこの大會に對し何等御手傳が出来なかつたのは

誠に汗顔の至りに思つて居るにも拘はらず今夕も御招きに預り皆さんから御話を承ることを得ましたことは感謝の至りに堪えぬ、只今會長の指名により起りました關係上鐵鋼に關する感想と希望を申上て皆さんの考慮を煩はしたいと思ふ、我國の鐵鋼生産工業は歐米先進の恩澤を受けて發達して來たことは申す迄もないのであるが今日では斯業の進歩著しく進歩の度に於て先進國に比し何等遜色なき迄になつて居り將又製品の品質形狀等に於ける信用も亦他に比し遜色なきものと信じてよいと考へらるゝのであつてこれ全く皆さんの研究經驗努力の效果の表はれたものである、併し現在の鐵工業の生産状態を觀ると國內の需用に對しては飽和の状態にあり又設備も過剩と稱し得るので之が爲に經營者は相互に苦しんで居るのであるから此際なるべく製品を海外に出して我鐵工業の活路を求むることを第一の信條としてゆかねばならぬと思ふのである、現今では既に紡績工業に次いで輸出の大宗をなして居るのみならず鐵工製品の輸出量は常に漸増の傾向をもつて居るので輸出の第3位にある様な重大性をもつ産業であるが故に今後益々海外に進出することを考へ又其實行を志して居るのである、現今で最も取引の多いのは東洋及南洋の市場（世界人口の3/5を占む）であり又此市場が我日本の物資により物質的文明の向上を計りつゝある關係上爰當分は日本品の需用は衰へぬものと認めてよいと思ふ、南洋方面の需用は鐵工業品 200,000,000 圓に上り我國より輸出するもの 30,000,000 圓乃至 40,000,000 圓で今後尙進出の餘地は尠くないと思ふのみならず今迄第1位の纖維工業製品を鐵工製品で置き替へ得べき時機の到るも左まで遠き將來でないと思はるゝのであります、如斯機運に向つて居る際に我等の競争者として南洋に進出して來るものは獨逸の斯業者であつて其競争の程度が最高潮に達しつゝあるので或は1圓2圓の開きが其雌雄を決すると云ふ様な實にきわどい状態を示す場合が多々あるのであるが故に我國としても總ての品物を極めて廉價に生産する必要があるのである従て此競争に對しては國際的に有利に解決するの必要あることを痛感しつゝあるのであつて現在の如く種々の事情のもとに鐵工製品の基をなす鐵及鋼の價格の上昇しつゝあることが我等鐵工業者にとりては大なる苦痛であり將又之によつて折角進出しつゝある輸出に對し障害を來す恐なしとしないのである故に希くは諸君に於かれても公益を重んずることを信條として研究に邁進せられ鐵鋼の生産費の低減を期すべく努力せられんことを切望するものである云々。

次に今泉博士は從來我國の産業統制について資本家の

立場より諸種の施設を見て居るが之では完璧を期することは困難であつて今後は宜しく技術方面を考慮して技術家が其衝に當り組織的統制を計ることが必要であるのではないかと考へらるゝのであると云ふ意味の演説あり。

次に栗本氏は先般月餘に亘り滿洲に於ける産業に對し視察旅行をなしたる關係上目下問題になつて居る日滿經濟統制について卑見を述べて見たい、所謂日滿經濟統制即ち滿洲に於ては粗工業をなし。

日本に於ては精工業をなす。

と云ふが如き主旨を以て進まんとすることは忌憚なく云へば餘りに坐上の空論に走り過る時を無視した議論の様に思はれる。

現實にして滿洲の實状を視ると勞銀は安いが石炭電力運賃共に高く又現今では尙治安の維持が安心出來ない假りに之が近く維持せらるゝに至るもあの滿洲に盛大なる工業を起すことは中々容易でないと思ふことに歸着する殊に現在では石炭大豆以外の産物は多くは外國に輸出せられて居り滿洲は日本よりも外國に關係をもつことが尠くないと思はれるから今後は日本との經濟關係を密接ならしむる爲に種々の産業を促進せしむる必要なることは誰しも考へるのである併し現在の如く我國内に於てさえ産業の統制が中々困難である状態であつては滿洲に於てのみ統制をうまくやつて行くと云ふ風な共同作業をなすことが矢張困難が多いのではないかと思ふ、故に滿洲に共同進出と云ふことになれば一つの強力な組織が必要なることが考えさせらるゝのである。

併し滿洲の現状では上述の組織のみでは中々事が捗取るまいと思ふのみならず世界の資本主義と各國の經濟とが時計のバネとギヤーの關係にあると見てバネだけ取替てもギヤーがよくならねば時計は動かない即世界の經濟機構に一國の經濟の關係丈では何等の効果を及ぼさないものであるから此際滿洲に於ても或時期迄はあまり原則にのみ重きをおかずして所謂統制經濟によらず寧ろ優勝劣敗的に諸種の工業を起さして差支ないと思ふ、併し此場合にも勿論國家的統制は必要なりと思ふ云々。

次に齊藤委員長は本大會について萬事不行届を謝し見學についても不行届の點なきを保せず不惡諒承ありたし尙此席上見學工場の諸氏に御禮を申し上げ尙宜しく御顧みする云々。

次に野田氏指名せられたるも連日に亘る講演其他の爲に我々の頭は既に疲勞を覺ゆるから此際御話を遠慮すると、

以上終て河村會長より5分間演説打切技に本會の前途を祝福したいと述べ

江村氏發聲の下に 兩陛下 萬歲  
日本鐵鋼協會萬歲を三唱し散會す時に午後 9 時

## 工場見學の狀況大要

8 月 18 日

本日豫定の通り午前 9 時 住友 製鋼所に參集するもの 170 名。休憩所には同所製品の一部を陳列し夫れ等の製造順序を現品を以て説明しありたり、廳で荒木 常務取締役の挨拶あり次で河村會長謝辭ありて製鋼工場、鑄造工場、輪バネ工場、鍛壓工場、外輪工場、輪軸工場等 所定の順路にて約 1 時間詳細に見學し徒歩川岸町住友運河に向ふ。

午前 10 時 20 分市港灣部汽艇に乗船港灣見學の上 11 時 10 分中山薄鐵板工場岸壁に到着、構内新設工場を通過し所定の順路により、薄鐵板壓延精整工場及 亞鉛鍍金工場の作業を見學し新工場敷地内に設けたる 食堂に入り休憩中工場主中山悦治氏の挨拶俵博士の謝辭あり後晝食。少憩の後 12 時 40 分同所發木津川運河を渡り彼岸に待受け居る大阪製鐵會社員の案内にて 徒歩大阪製鐵會社に到り休憩所にて茶菓の饗を受け午後 1 時より製鋼工場及小形工場の作業を見學隨時戸畑鑄物會社に向ひ着後少憩の後午後 2 時より熔解作業鑄造作業成型燒鈍及研磨等の作業を見次に螺絲切り作業及之れに附隨する巧妙なる運搬設備を見學製品置場發送場を経て 製品展示室試験室番人なき購買の施設等を見再び休憩場に入り少憩 其間竹原工場長の挨拶齋藤博士の謝辭あり午後 2 時 40 分發栗本鐵工所に向ひ、同 3 時 10 分同所着直ちに工場内熔解場及鑄入作業心型製造等の狀況を見後製品仕上、水壓試験等の作業を巡覽し休憩所入口に設けられたる 圖表及實物展示により販路及製品の品質等に對する 概念を會得し得見學了りて休憩所に少憩中栗本所主の 挨拶水谷理事の謝辭あり之れを以て本日の見學を終了散會せり時に午後 4 時

10 月 19 日

見學班は午前 9 時神戸製鋼所本工場に 參集せるもの 186 名休憩室にて少憩中田宮事務一場の挨拶をなし 河村會長謝辭を述べ直ちに見學に移り 鑄造工場及機械工場の一部及鍛冶工場等を見學し 同所海岸工場に至り先づ製鋼工場壓搾工場の作業を見 10 時 40 分終了徒歩にて川崎造船所製鋁工場に向ひ午前 10 時 50 分同所 着少憩の上工場に入り製鋼工場厚鋁工場シートバー工場及 薄板工場等を見學し休憩所に入る茲に於て 小田切取締役より一場の挨拶あり之れに對し 河村會長謝辭を述べられ次いで川崎造船所及神戸製鋼所より提供せられたる 晝食の饗を受け隨時阪神電車により尼ヶ崎に向ふ、

午後 1 時 30 分住友伸銅鋼管會社尼ヶ崎工場に至り休憩室に入り少憩工場長木下亮吉氏の挨拶あり 齋藤博士謝辭をのべ直ちに見學に移り 平爐工場管材工場（中形ロール）及繼目なし鋼管壓延作業及精整作業を見學後運河に渡り對岸にある久保田鐵工所に至る

午後 2 時 30 分より熔解及鑄入成型作業試験室其他を見學し休憩期間久保田所主の挨拶及 河村會長の謝辭あり終つて徒歩にて午後 3 時 10 分旭硝子株式會社尼ヶ崎工場に到り少憩の後硝子板製造の狀況を詳かに 見學熔解より連續的作業により製品となる 状態見學班の興味をそより本日の見學を終了時に午後 4 時少憩後隨時散會

10 月 20 日自由見學に對しては委員差支の爲見學班に加はる能はず記録を缺くも各工場到る 處懇切なる案内と説明の勞を取られ參加會員一同満足と感謝に 充ちて見學を終了せり。

## 通俗講演會開會の辭

日本鐵鋼協會第 9 回講演大會委員長

齋 藤 大 吉

今回日本鐵鋼協會が當大阪市に第 9 回講演大會を開くに當り本夕當朝日會館に於て通俗講演會を開きましたところ中秋行樂の候にも拘らず皆様の 御來聽を得ましたことは我が日本鐵鋼協會として又直接 其準備に當りました阪神地方の委員長と致しまして誠に 光榮として感謝するところであります。

然ら我が製鐵業の過去を顧みて見ますと明治 7 年時の工部省が岩手縣釜石に初めて西洋式の 製鐵法を輸入して以來約 60 年弱を經過して居りますが本邦が稍々大規模の本式の製鐵業を始めましたのは日清戰爭直後明治 30 年から建設に着手し同 34 年から操業を開始した 八幡製鐵所が出来てからであります。爾來日露歐洲の大戦を経て最近 30 年間に八幡は勿論幾多の民間製鐵會社も非常の進歩發達を致しまして或の特種の少量の鋼材を除いて凡ての鐵材は全く自給自足の域に達し尙ほ 最近には爲替の関係よりして遠く歐洲諸國に其製品を 輸出するの機運に向ひましたことは私共の實に 愉快とするところであります。

又近來自動車飛行機ディーゼル等高速の交通機關及機械類の發達と各種軍器の改良進歩とは頻に新しき 特種鋼特種鑄鐵の發達を促し同時に 又鐵以外の銅合金、輕合金類に於ても亦長足の進歩を來して居ります。而して此等諸材料の製造乃至研究に於て我々は 最早外國の力を借るの必要なきに至りましたことは時節柄御互に甚だ心強く



感ずるところであります。

本夕は此等の問題に關し我が製鐵界及金屬加工界の第一人者として夙に令名のある製鐵所技監野田鶴雄博士、海軍中將石川登喜治博士を煩はして茲に掲げた演題に就て御話を願いたいと思ひます御清聽を願ひます。

終りに此通俗講演會を開くに當りまして多大の後援を戴きました大阪朝日新聞社及日刊工業新聞社に對し厚く御禮を申し上げます。

### 通俗講演會閉會の辭

日本鐵鋼協會會長

工學博士 河 村 曉

今回當大阪市に於て日本鐵鋼協會講演大會の開催を機とし斯界の權威者たる石川、野田兩博士を煩はし本夕通俗講演會を開催致したる處時恰も2日續きの休日に際し他にも重々なる御催しが重なり聽講者の比較的少數であつた事は聊か物足りない感じがなくありませんが、たとひ數は少くとも長時間倦む處なく熱心に聽講されました事に對し主催者たる日本鐵鋼協會を代表し感謝の意を表するものであります。

申す迄もなく金屬殊に鐵鋼は諸工業の基礎をなすものでありまして基礎が充分安定を得て後始めて堅牢なる建築物が出來ると同様一國の基礎工業たる鐵鋼が自給自足され量に於ても品質に於ても果亦價格に於ても安定を得て始めて諸工業の勃興するものである事は歐米諸國の實例に徴するも明亮なる處であります吾々鐵鋼の學術又は實際製造作業の局に當りますものは何れも常に之の理想を實現する爲めに鋭意努力邁進し來つたものでありまして今日に於ては吾國も遅れ走せながら量に於ては漸く自給自足の域に進み生産品の品質は或ものは已に外國品を凌駕し一般に外國品に比し遜色なきに至り生産費も歐米各國のそれに比して敢て高價ならざる程度に達して居るのであります乍併吾々は之を以て決して満足す可きではありません之を諸外國の例に徴するも文化の發達に伴ひまして將來益々鐵鋼の需用は激増致すのみならず之を使用する機械工業、化學工業、航空事業其他各方面に於て種々品質に關する要求も亦向上致して參りますので吾々は一層研究と努力を重ね益々鐵鋼事業の發展を計り惹いては之を基礎とする諸工業の振興を助長し國益を増進せん事を期するものであります。本夕の石川博士の御講演は同氏多年の蘊蓄を傾け而も之を簡易化し通俗化せられたものでありまして之により金屬材料の概念並に其研究の重要性と興味とを了解せられた事と考へます、又野田

博士の御講演により從來動もすれば抱懷せられたる本邦製鐵事業が果して吾國に於て有利に成立するや否やに就ての疑惑の念を一掃し安心せられたる事と信じます。之を以て閉會と致します。

### 晚餐會席上卓上演説

日本鐵鋼協會々長

工學博士 河 村 曉

從來講演大會の機會に於て懇親を兼ね晚餐會を催ふす慣例になつて居りますが本夕は何時もよりも御來臨の賓客並に出席會員の數も多くかく盛會を開く事を得ました事は誠に欣快に堪えざる次第であります就ては此盛會に際し聊か本協會の過去を回顧し且來賓各位に對して本會の性質並に近狀を御紹介申し上げたいと存じます本會は創立後今日に至る迄18年餘を經過致しましたが設立當時大正4年の頃は恰も歐洲大戰の漸く爛ならんとする時期に際し製鐵界も將に之より多事ならんとする機運に乗りましたので會の設立としては其時機を得て居たのであります其後戰後鐵鋼界の不況に連れて其影響を蒙り殊に大正12年の關東大震災に遭して會館は焼失し一時非常な打撃を受けました其後は時勢の推移に連れて多少の消長は免れなかつたのであります之を概觀致しますと會の事業は常に進歩の道程を辿りつゝある事が看取せらるゝのでありまして會員數は目下1,400内外を保ち毎月1回發行する處の會誌「鐵と鋼」は設立當時に比較致しますと其内容は全然面目を一新し獨創的研究が次第に擡頭し來つた事は喜ばしき現象であります。又講演大會は近年春秋の二季に開催し春季は東京に於て秋季は鐵工業の中心地方に於て開く事になつて居りますが毎回4)又はそれ以上の多數の研究發表を見るに至りかくして會誌並に講演大會の内容は獨英等の本場に比べますと會の創立年次は3、40年も遅れて居るに拘はらず之と對比して大差なき迄にこぎつけたのであります之は頗る急速なる進歩と申さなければなりません資産状態は凡て他の學會と同じく無論餘り豊ではありません併し幸に官立製鐵所始め鐵鋼業に従事せらるゝ會社より維持會員として御援助を賜つて居ると本會傳統的の堅實なる經營方針に依り冗費を省き以て事業遂行に差支なきを期して居る次第であります其外一昨年香村博士と共に本會元勳の一人たる服部博士記念資金2萬圓の寄贈がありまして之より生ずる利子を以て鐵鋼に關する學術上、及技術上の進歩改良の發達に貢獻したる者に服部賞牌又は服部賞金を授與する事になつて居ります又今回は香村博士の特志寄贈金

2 萬圓を得まして其 1 部を以て鐵鋼の理論及作業上の發見發明又は新案を得たるものに對する 香村賞牌授與の規則を設け既に昨日第 1 回として久保田氏に對し贈呈式を行つた次第でありましてかゝる企は申すも誠に長き次第ではありますが 陛下の御軫念遊さるゝ所の學術の振興の御主旨並に模倣を避け獨創に努めよゝ發明を獎勵せよとの聖旨に協ひ微力ながらも聊か此方面に貢獻し得るに至つた事は本會の最も欣幸とする處であります 尙ほ本會の設立當初は未だ我國鐵鋼に關する機關は他に一切存在せず基礎工事中の基礎工事とも申す可き鐵鋼事業に對する認識が稍もすれば一般に不充分なる時代でありましたので本會は學術技術の外經濟並に製鐵政策等に就ても指導者の位置に立ち盡力致した事もあります其後大正 15 年に至り鐵鋼協議會其他鐵鋼に關する 當業者の團體が續々多數に出來又經濟聯盟に於ても 經濟政策を取扱つて居るのでありますから 自然其間分野が定まりまして政策方面の事は他の團體に譲り今日にては殆んど純學術並に技術の研究振興を主目的とする 團體となつた次第であります會の狀況報告ば以上に止めまして今回御當地に大會を

開催致しますに就て不一方御盡力を煩はしたる 齋藤委員長、加藤副委員長其他委員の方々多數の 講演者諸君、並に會場を貸與せられました 大阪工業大學、府立商工獎勵館の御厚意に對し深く感謝の意を表します 又見學に就ては多數工場、大阪府港灣部の御厚意に依り明日より 3 日間に亘り工場參觀の機會と便宜を興へられたる事更に 香村賞牌の贈呈式に祝詞を賜はり式に一段の光彩を添へられました 關大阪市長、安宅大阪商工 會議所副會頭、江村大阪鐵工同業組合長の御厚意に對し之の 機會を利用して厚く御禮を申し上げます。

尙本夕の晚餐會は折角の御光來に不拘誠に 御粗末で H 萬事不行届なる事に對し御詫を申し上げます茲に 皆様の御賛成を得て來賓御一同の爲めに乾杯致し 御健康を祝福致したいと思ひます (乾杯)

例に依りまして之より 5 分間演説に移ります皆さんの御許しを蒙り私より指名させて頂きたいと思ひます。

(一同拍手賛成)

- 1、久保田氏
- 2、香村博士
- 3、江村氏
- 4、今泉博士
- 5、栗本氏
- 6、齋藤博士
- 7、野田博士